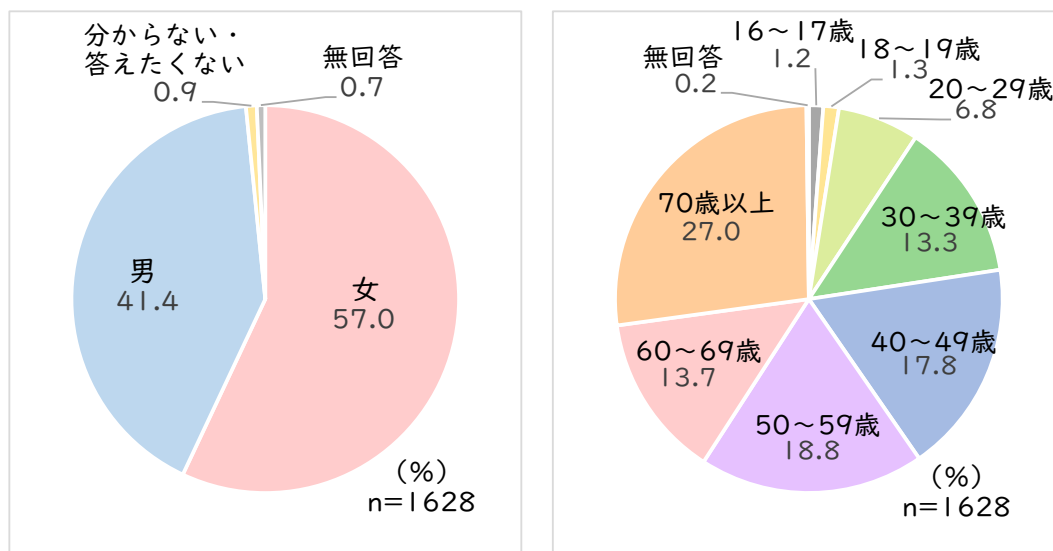


茨木市のまちづくりに関する アンケートの集計・分析結果

I 回答者属性

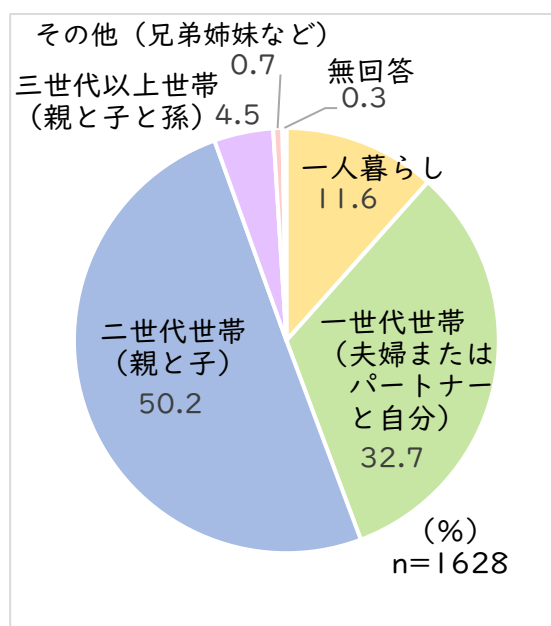
I-1 性別・年齢

問1 あなたの性別・年齢について、教えてください。



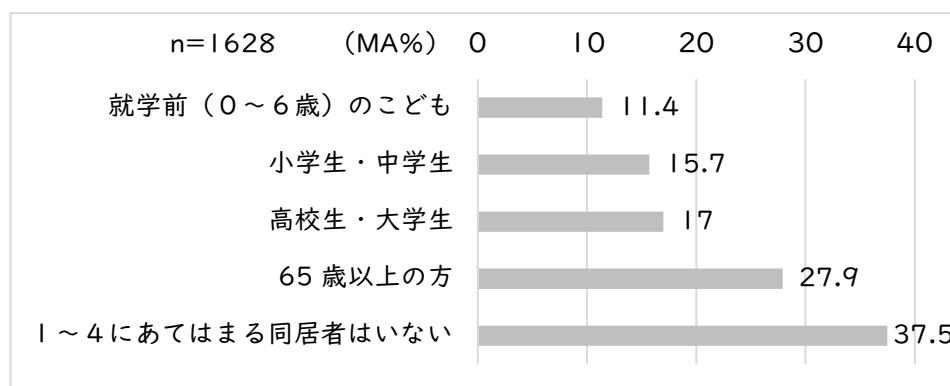
I-2 家族構成

問2 あなたの家族構成について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



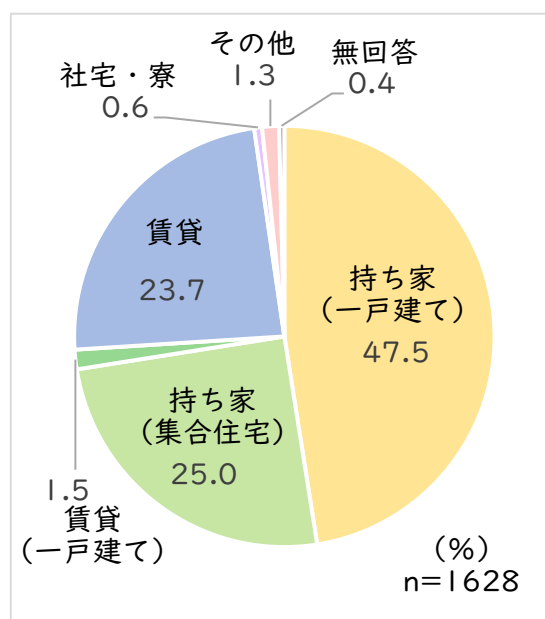
1-3 同居する子ども・高齢者

問3 下記のようなご家族と同居していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



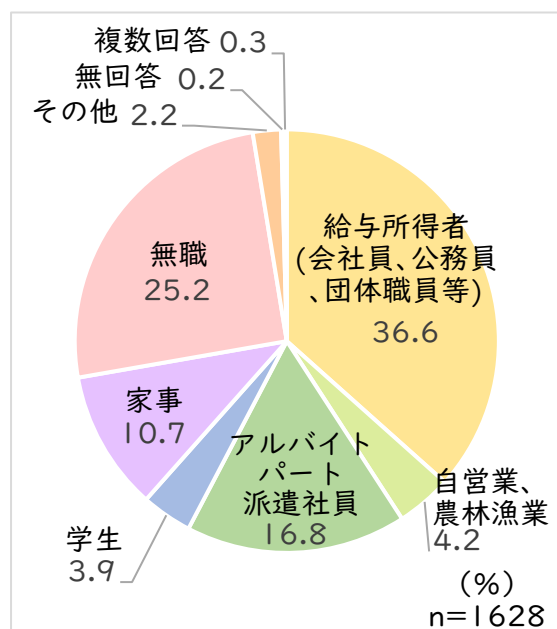
1-4 住居携帯

問4 あなたがお住まいの住宅の種類について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



1-5 職業

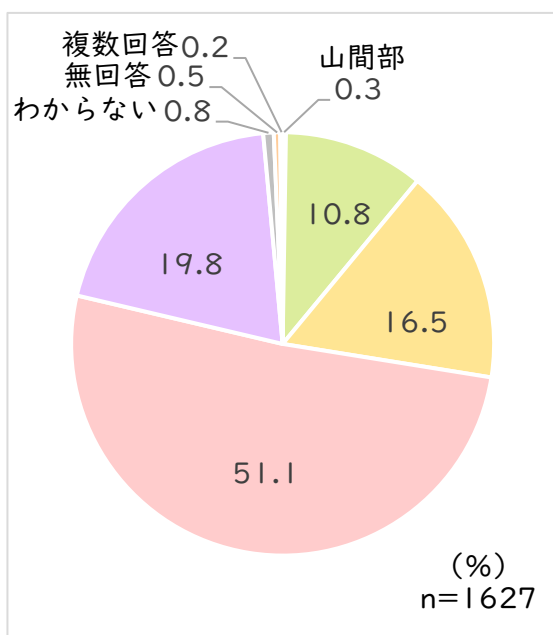
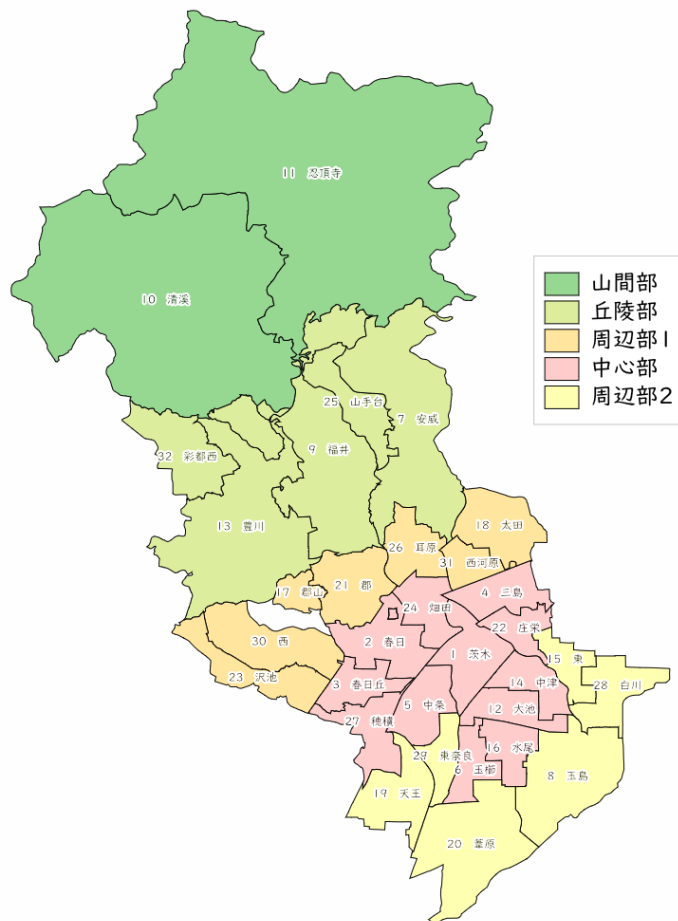
問5 あなたの職業(兼業の場合は主なほう)について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



1-6 居住する地区と小学校区

問6 あなたはどの小学校区にお住まいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

地区	小学校区	回答数	構成比
山間部	清溪	—	—
	忍頂寺	4	0.3
	小計	4	0.3
丘陵部	安威	25	1.5
	福井	28	1.7
	豊川	17	1.0
	山手台	45	2.8
	彩都西	60	3.7
	小計	175	10.8
周辺部1	郡山	15	0.9
	太田	68	4.2
	郡	30	1.8
	沢池	51	3.1
	耳原	42	2.6
	西	31	1.9
	西河原	32	2.0
	小計	269	16.5
中心部	茨木	122	7.5
	春日	83	5.1
	春日丘	62	3.8
	三島	53	3.3
	中条	105	6.5
	玉櫛	53	3.3
	太池	101	6.2
	中津	75	4.6
	水尾	60	3.7
	庄栄	41	2.5
	畑田	22	1.4
	穂積	55	3.4
	小計	832	51.1
周辺部2	玉島	40	2.5
	東	51	3.1
	天王	72	4.4
	葦原	61	3.8
	白川	52	3.2
	東奈良	47	2.9
	小計	323	19.8
わからない		13	0.8
無回答		8	0.5
複数回答		3	0.2
合計		1627	100.0



2 茨木市内の活動への参加状況について

2-1 茨木市内の活動への参加状況について

問 16 あなたは、茨木市内でどのような活動に参加されていますか。（あてはまるものすべてに○）

“自然保護や環境保全”への参加割合は 1.8%であった。選択肢 12 項目の内 10 番目の割合であり、参加状況は低いと考えられた。

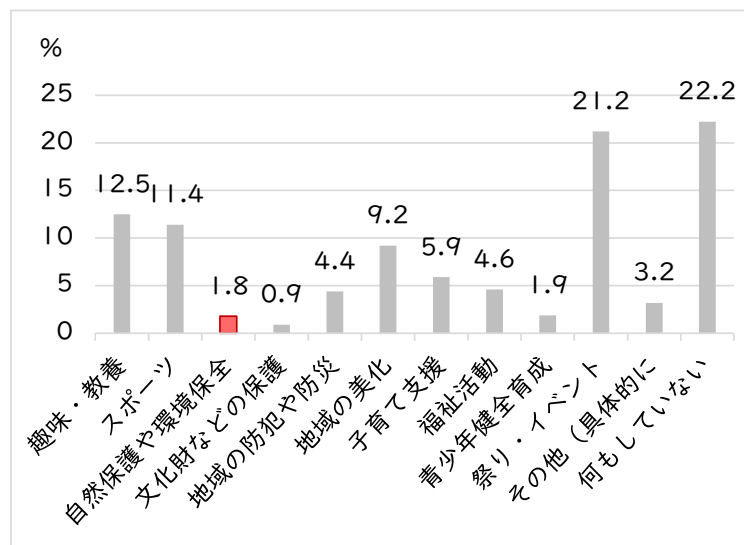


図 茨木市内の活動への参加割合

経年比較の結果、H30 年度は 1.8%、H24 年度は 2.3%であり、低水準が続いていることが明らかになった。

3 環境に関する取組について

3-1 茨木市の環境の現状に対する満足度と期待度

問 30 茨木市の環境の現状に対する満足度と今後の充実への期待度について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（各項目、あてはまるもの1つに○）

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～4の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 30 の回答の点数表

項目	現状への満足度					今後の充実への期待度				
	満足	やや満足	わからない	やや不満	不満	満足	やや満足	わからない	やや不満	不満
1 いごちの良いい生活環境をたもつ（大気や水質、化学物質、美化活動など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2 バランスのとれた自然環境をつくる（身近な緑の保全、里地里山、生きものの観察会や外来生物対応など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
3 ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす（省エネルギー活動、太陽光発電導入など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
4 きちんと分別で資源の循環をすすめる（3Rの推進やごみの分別など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2

① 年齢別の集計結果

4項目とも満足度よりも期待値が高い傾向があり、回答者が4項目の向上を望んでいることが示唆された。年齢別にみると、満足度や期待度は若年層が高く、高齢層が低い傾向が明らかになった。

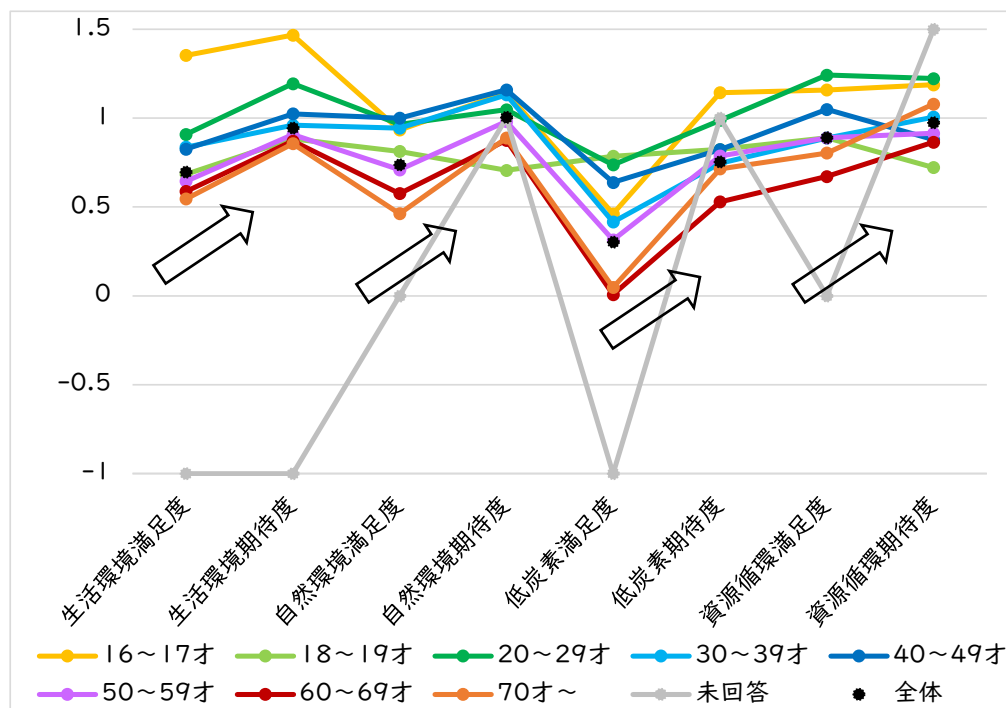


図 環境の現状に関する満足度・期待度

② 性別の集計結果

平均値を性別でみると、男女の差は小さかったが、満足度、期待度ともに全項目で“女＞男”であった。

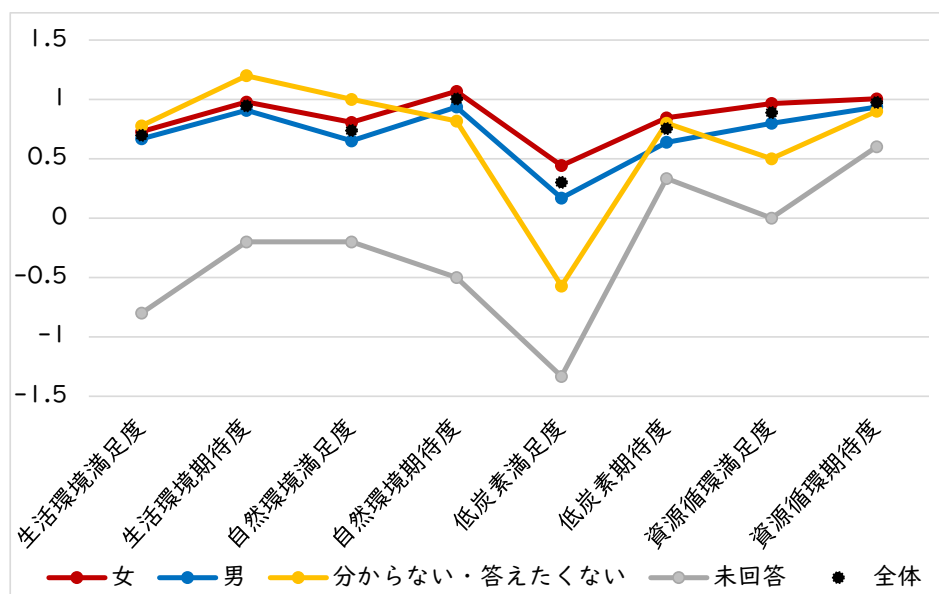


図 環境の現状に関する満足度・期待度 (性別)

③ 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

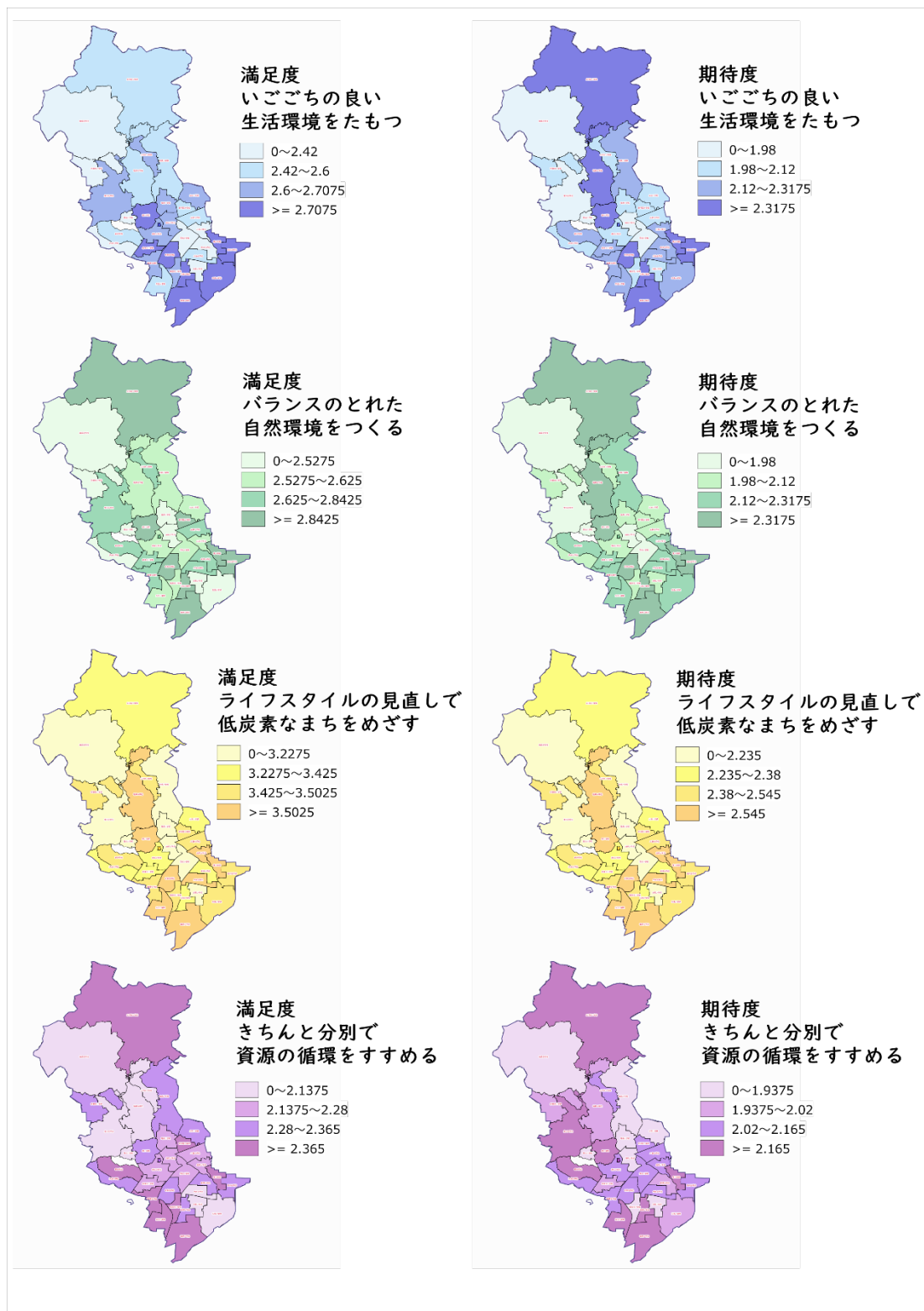


図 環境の現状に関する満足度・期待度（小学校区別）

④ 経年比較の結果

満足度は4項目（生活環境、自然環境、低炭素、資源循環）すべてでH30年度を大きく上回った。期待度は4項目すべてでH30年度をやや上回り、概ね60%と高い割合が引き続き期待していた。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H30年度の回答で大きい割合を占めた“普通”が配分された結果の増加であり、単純比較はできないと考えた。

項目別にみると、低炭素の満足度、期待度が他3項目より低いことから、啓発や施策の充実が課題である。

表 回答の選択肢の違い

H30 年度	R5 年度
大変満足	満足
どちらかといえば満足	やや満足
普通	—
どちらかといえば不満	やや不満
大変不満	不満
—	わからない

なお、アンケートの選択肢は、R5年度とH30年度で若干異なったため、図の凡例では平成30年度分を（ ）内表記した。

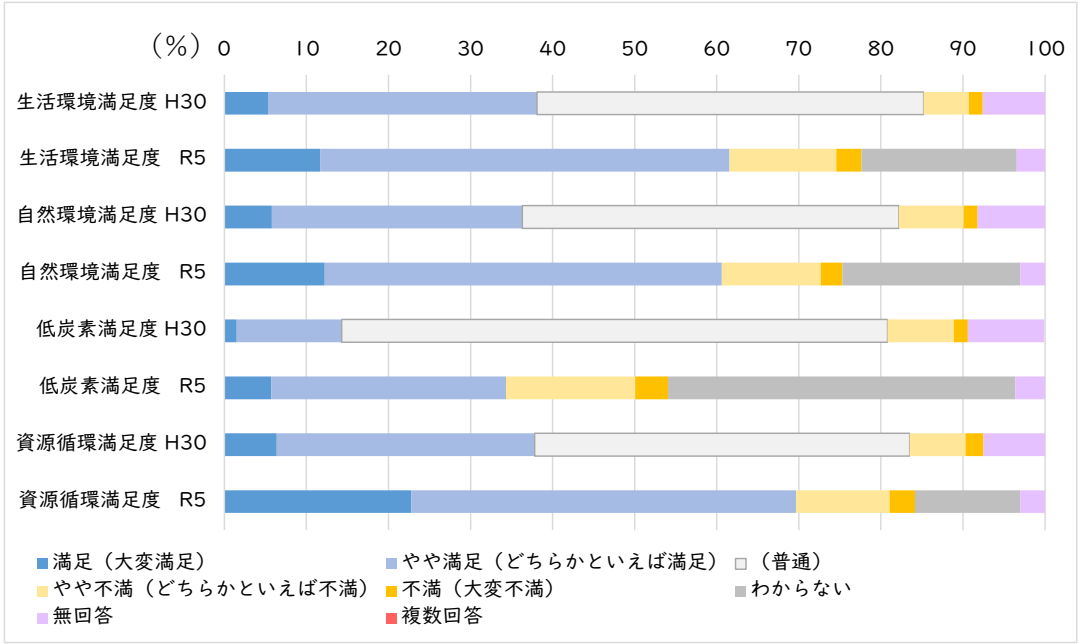


図 環境の現状に関する満足度の経年変化

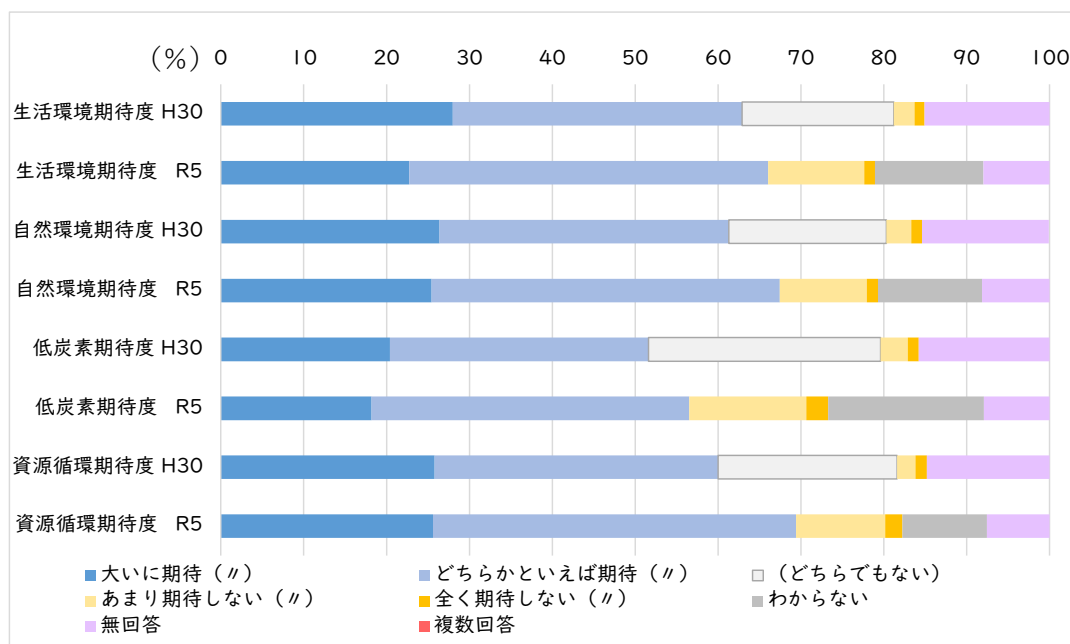


図 環境の今後の充実への期待度の経年変化

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組

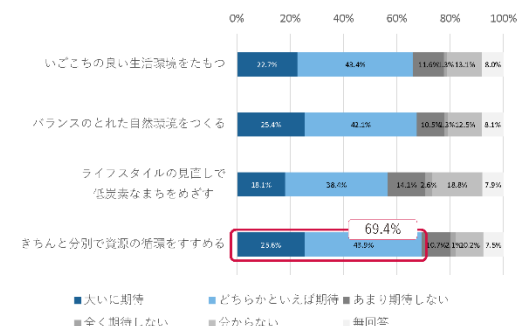
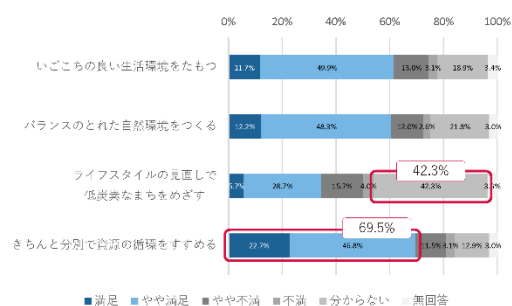
48

満足度	期待度
-----	-----

茨木市の環境について現状の満足度について質問を行った。 茨木市の環境について今後の期待度について質問を行った。

「きちんと分別で資源の循環をすすめる」が「満足」、
「やや満足」の計が69.5%と最も多くなっている。
また、「ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす」は、「分らない」が42.3%と高い割合となっている。

「きちんと分別で資源の循環をすすめる」が「大いに期待」、
「どちらかといえば期待」の計が69.4%と最も多くなっている。

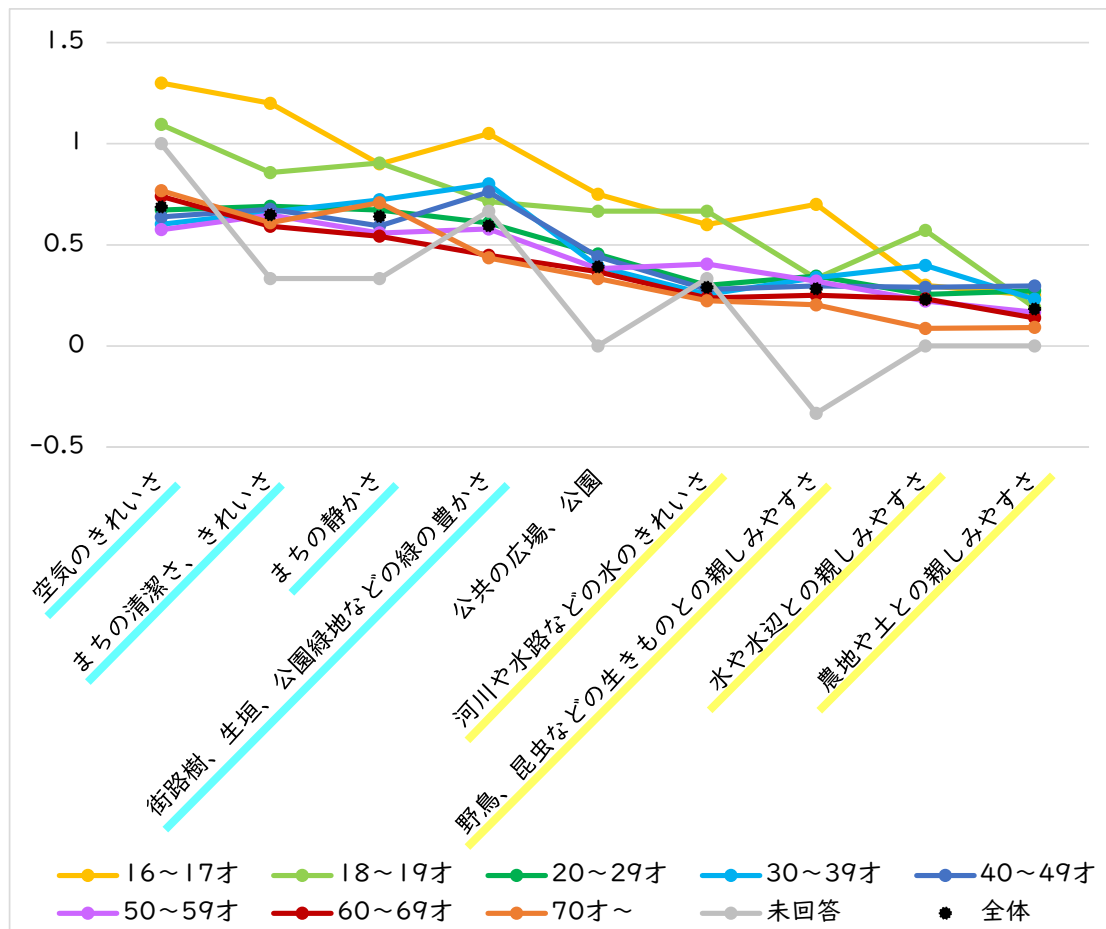


問 31 住まいの周辺環境に対する満足度について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（各項目、あてはまるもの1つに○）

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～9の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 31 の回答の点数表

満足	やや満足	わからない	やや不満	不満
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2



* 項目の順序は全体平均値順

図 住まいの周辺環境に関する満足度スコア（年齢別）

① 平均値の集計結果

9項目とも平均値が0を上回っており、満足度は良い～普通であることが示された。比較的満足度が高かった項目は、“空気のきれいさ”、“まちな静かさ”、“まちな清潔さ、きれいさ”、“緑の豊かさ”であった（水色下線）。一方で、比較的満足度が低かったのは、“河川や水路などの水のきれいさ”、“水や水辺との親しみやすさ”、“農地や土との親しみ

やすさ”、“野鳥、昆虫などの生きものの親しみやすさ”であった（黄色下線）。

比較的満足度が高かった 4 項目は生活環境項目が多く、比較的満足度が低かったのは自然環境項目であった。満足度が“生活環境”>“自然環境”の傾向は、問 30 の結果と逆になったが、より具体的な本質問で満足度が低かった項目は茨木市の課題と考えられる。

② 年齢別の集計結果

年齢別にみると、満足度や期待度は若年層が高く、高齢層が低い傾向が明らかになった。

③ 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

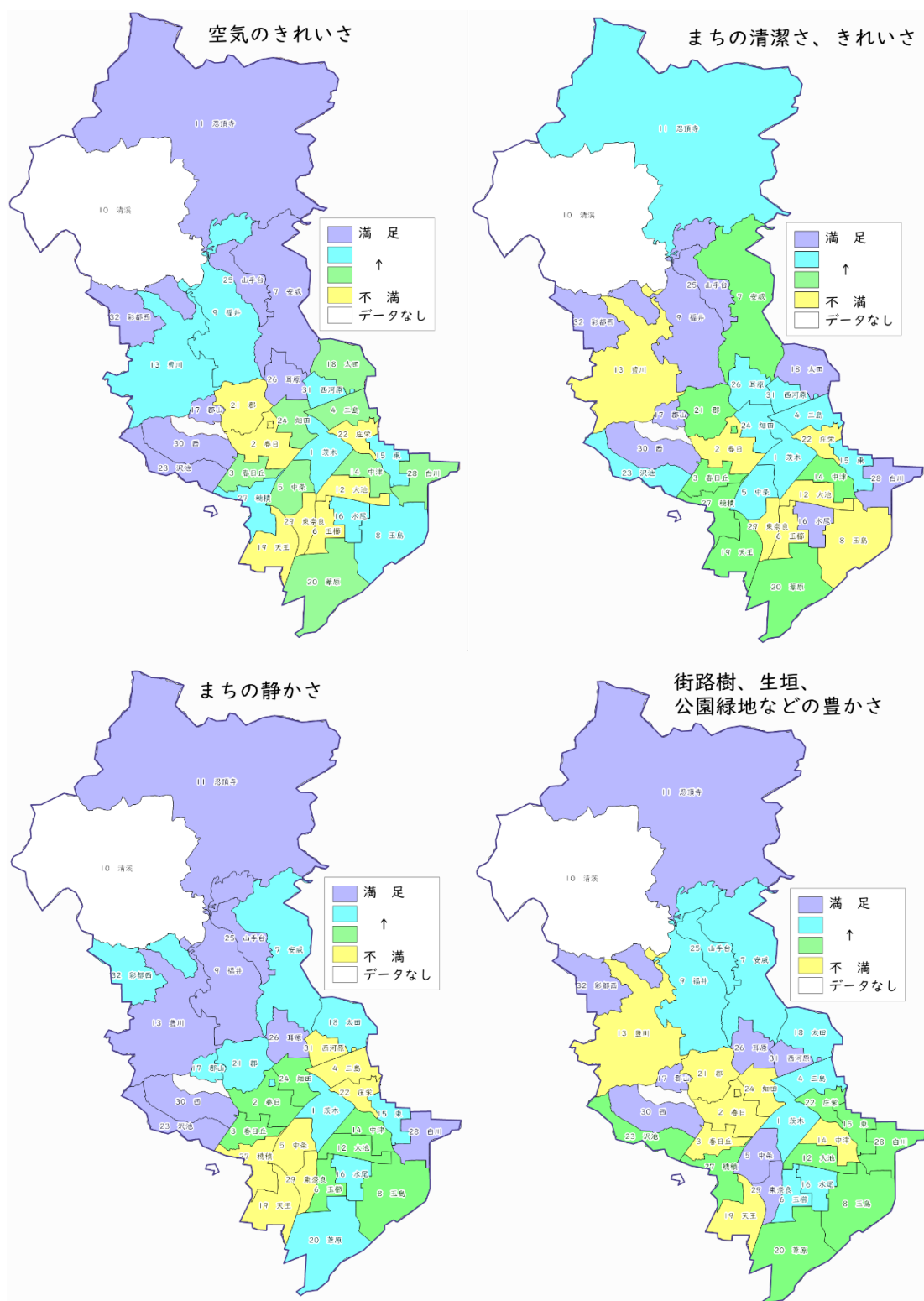


図 住まいの周辺環境に関する満足度（満足度が相対的に高い4項目）

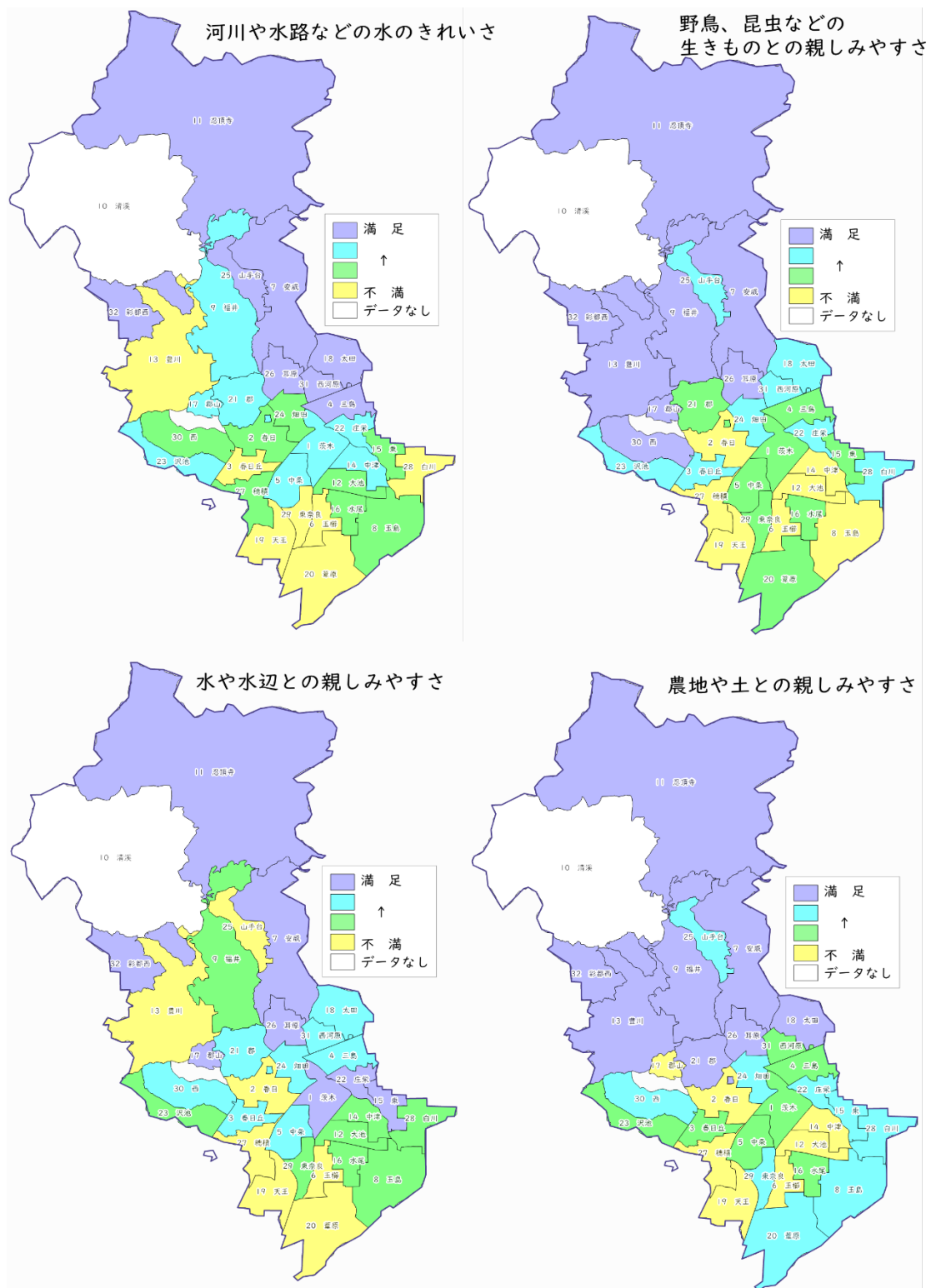
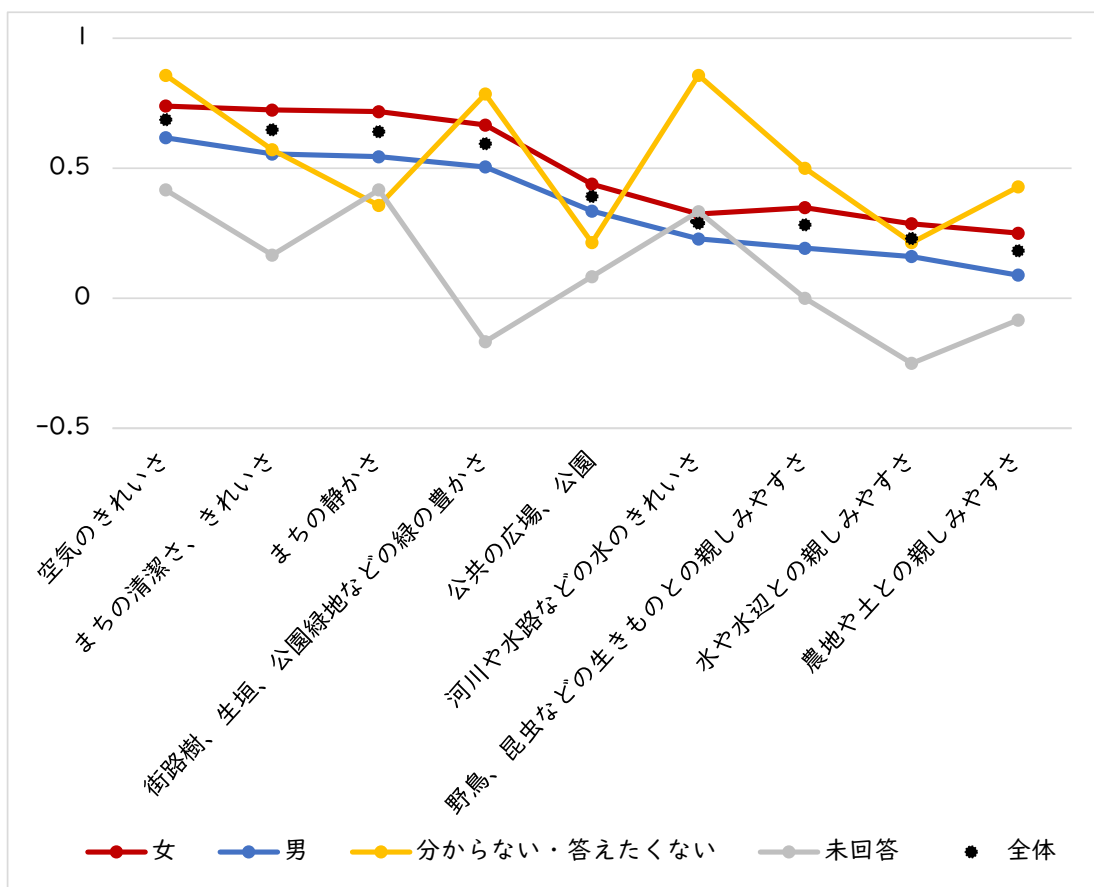


図 住まいの周辺環境に関する満足度（満足度が相対的に低い4項目）

④ 性別の集計結果

性別に平均値みると、男女の差は小さかったが全項目で満足度は“女＞男”であった。



* 項目の順序は全体平均値順

図 住まいの周辺環境に関する満足度スコア（性別）

⑤ 経年比較の結果

全項目で“満足”と“やや満足”が H24 年度を大きく上回った。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H24 年度の回答で大きい割合を占めた“普通”が配分された結果の増加であり、比較はできないと考えた。

表 回答の選択肢の違い

H24 年度	R5 年度
大変満足	満足
どちらかといえば満足	やや満足
普通	—
どちらかといえば不満	やや不満
大変不満	不満
—	わからない

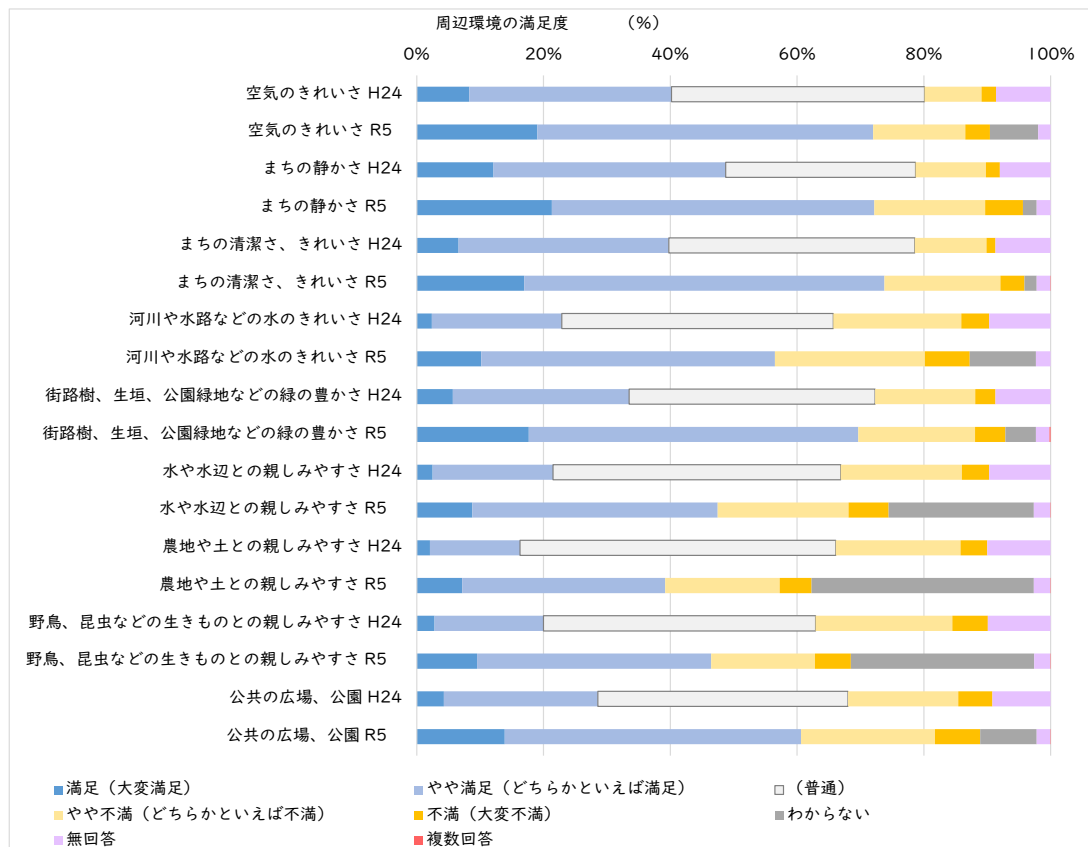
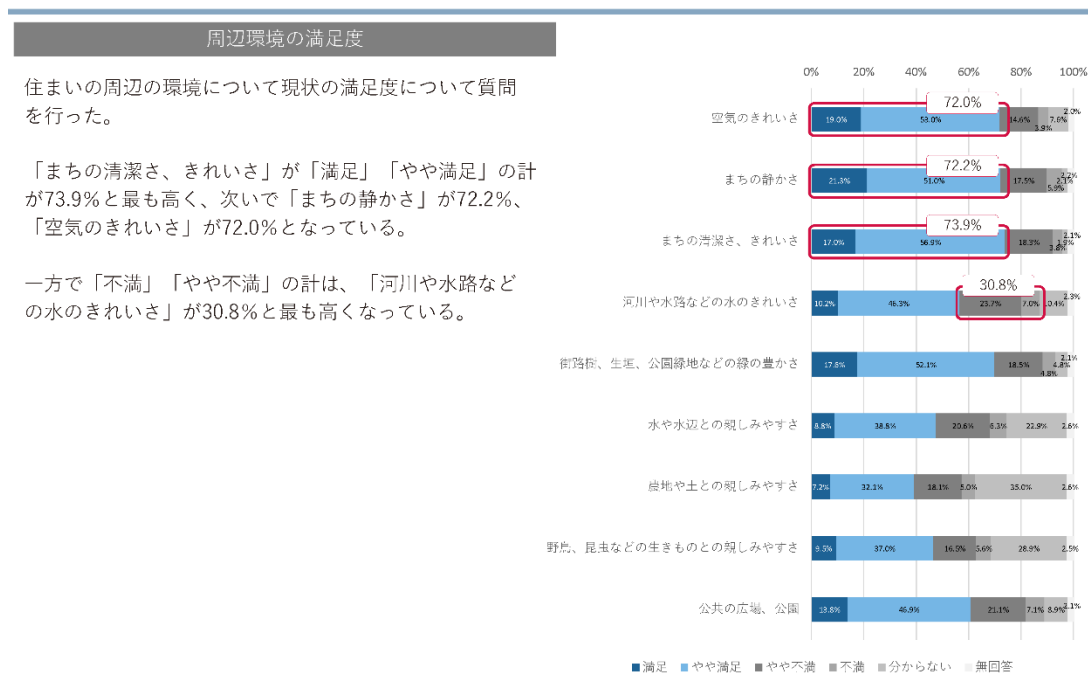


図 住まいの周辺環境に関する回答割合の経年変化

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組

49



問 32 環境配慮行動に関心がありますか。また、行動に取り組んでいますか。(各項目、あてはまるもの1つに○)

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～9の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 32 の回答の点数表

関心					取組状況				
とても関心がある	やや関心がある	わからない	あまり関心がない	全く関心がない	すでにやっている	これからやってみたい	わからない	やりたいができない	やりたくない
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2

① 平均値の集計結果

取組状況の点数が比較的高かったのは“ごみ減量”、“節電行動”、“公共交通機関”、“ごみ分別”であり、取組状況の点数が低かったのは、“太陽光発電・蓄電池など”、“電動車”であった。

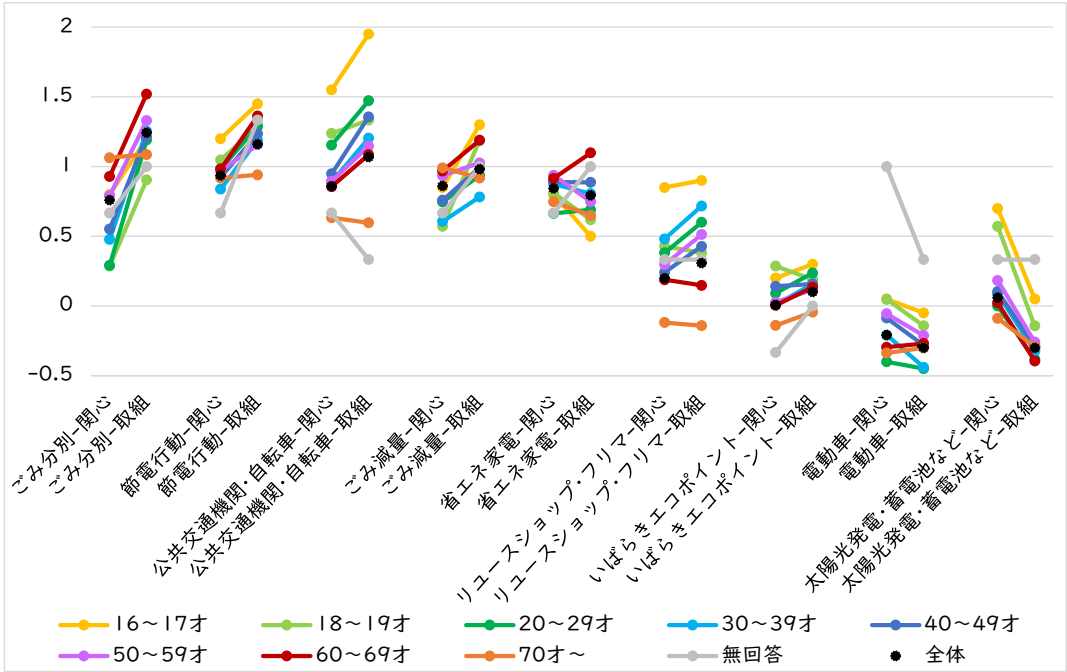


図 環境配慮行動への関心・取組状況スコア（年齢別）

② 年齢別の集計結果

年齢別にみると、項目ごとに年齢層に違いが見られた。60才以上はごみ減量”、“省エネ家電”で点数が高いが、それ以外の項目は点数が低かった。

③ 住宅種類別の集計結果

住宅種類別にみると、点数が低い“電動車”はいずれの住居種類でも関心・取組の点数が低く、持ち家と賃貸・社宅・寮に大きな違いは見られなかった。“太陽光発電・蓄電池など”は、賃貸・社宅・寮が持ち家よりやや関心が高いが、取り組まれていない状況が明らかになった。状況の改善が課題であり、啓発や優遇策など政策的後押しが必要と考えられる。

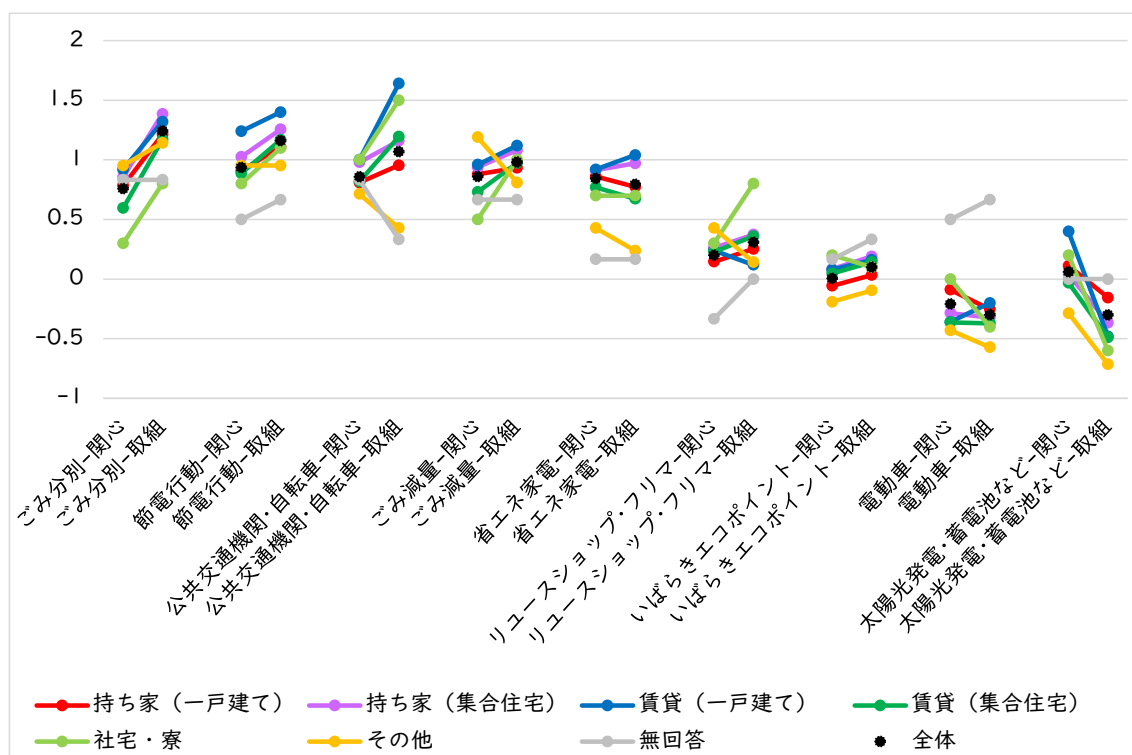


図 環境配慮行動への関心・取組状況スコア（住宅種類別）

④ 経年比較の結果

環境配慮行動への関心（“とても関心がある”と“やや関心がある”の合計）は、平成 25 年度よりも概ね高まった。多くの項目で“満足”と“やや満足”が H24 年度を大きく上回った。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H24 年度の回答の“どちらともいえない”が配分された結果の増加であり、比較はできないと考えた。

項目別に見ると、“電動車の導入”と“太陽光発電、蓄電池などの設置”では関心が低くなっており、啓発や導入に向けた政策支援が課題である。

なお、経年比較は、R5 年度と H24 年度で内容が同じか近い設問のみを比較した。

表 関心の回答の選択肢の違い

H24 年度	R5 年度
とても関心がある	とても関心がある
どちらかといえば関心がある	やや関心がある
どちらともいえない	—
あまり関心がない	あまり関心がない
全く関心がない	全く関心がない
—	わからない

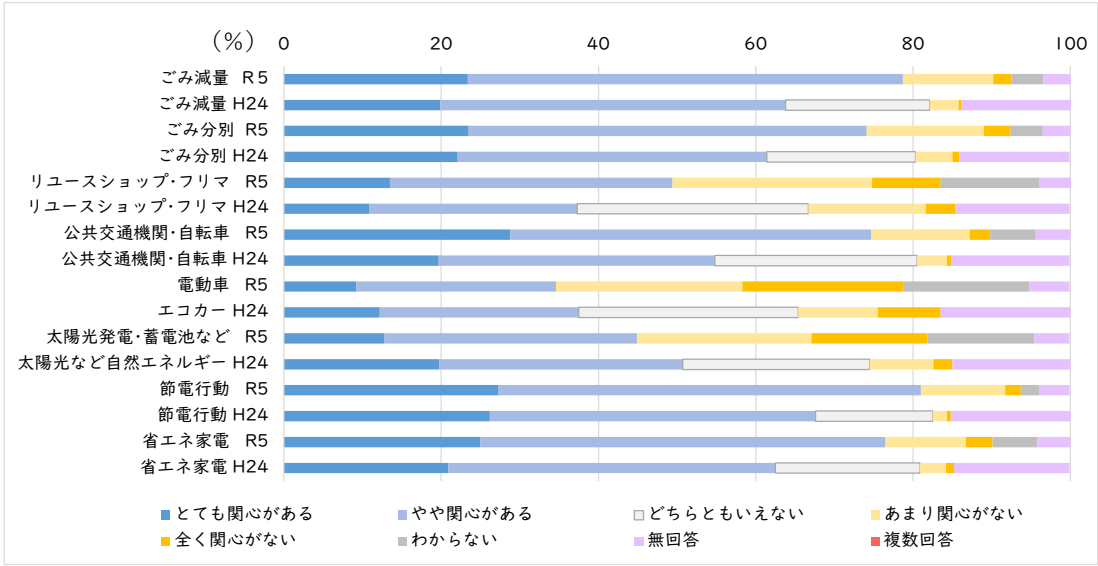


図 環境配慮行動への関心の経年変化

環境配慮行動への取組（“すでにやっている”と“これからやってみたい”の合計）は、平成 25 年度よりも概ね高まった。ただし、“電動車の導入”と“太陽光発電、蓄電池などの設置”では取組の割合が低くなっており、導入に向けた政策支援が課題である（いばらきエコポイントの見直し、個人向け補助金制度、法人向け補助金・優遇制度、公共施設への充電設備設置など）。

なお、経年比較は、R5 年度と H24 年度で内容が同じか近い設問のみを比較した。

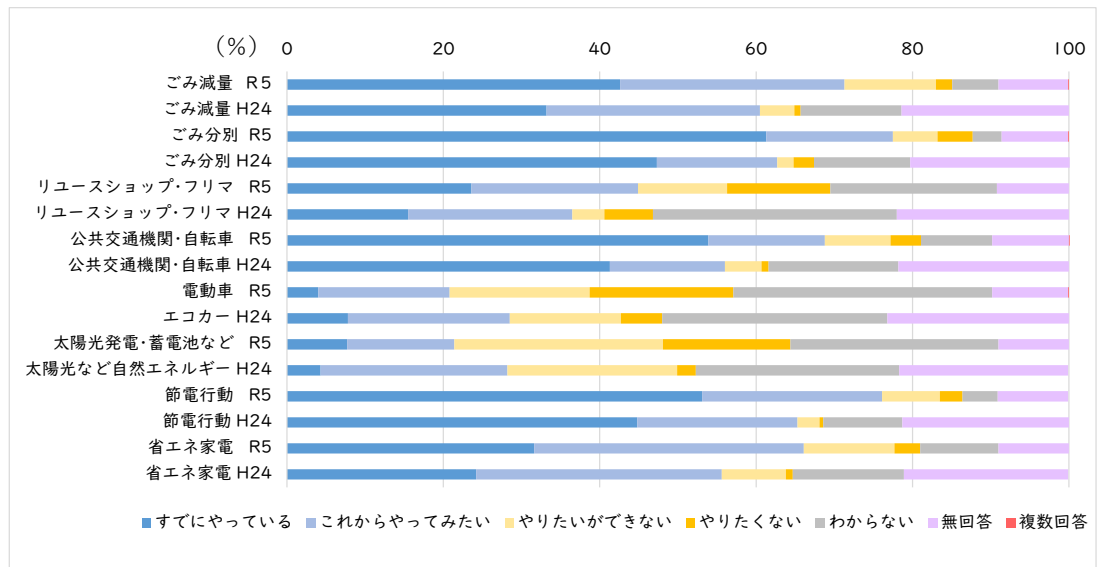


図 環境配慮行動への取組状況の経年変化

⑤ 環境学習の効果

“環境配慮行動への関心”と問 37“体験学習”の参加の関係を整理した結果、体験学習参加者は環境に取り組む割合が高いことが示された。

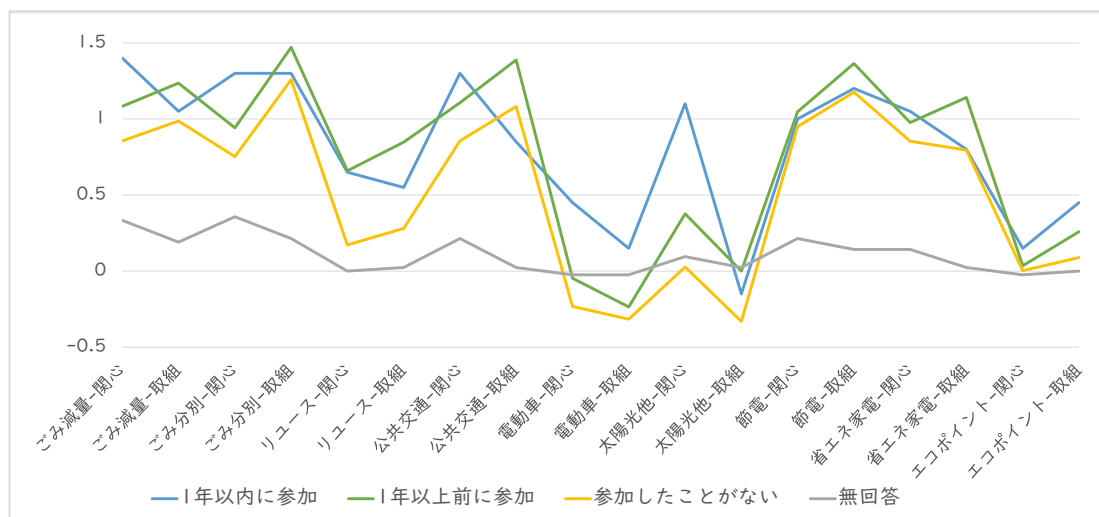


図 環境配慮行動への取組状況と体験学習（気候変動）の関係

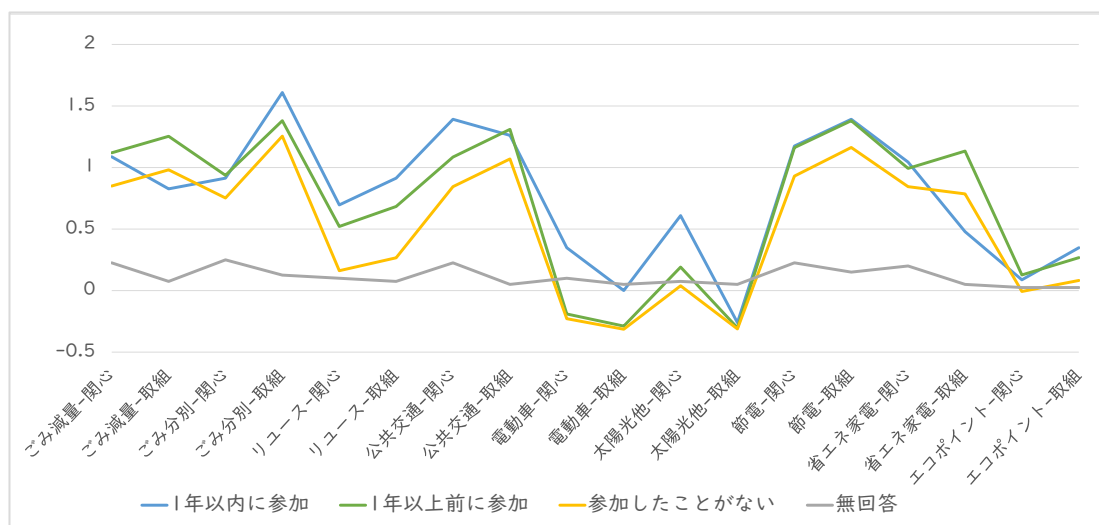
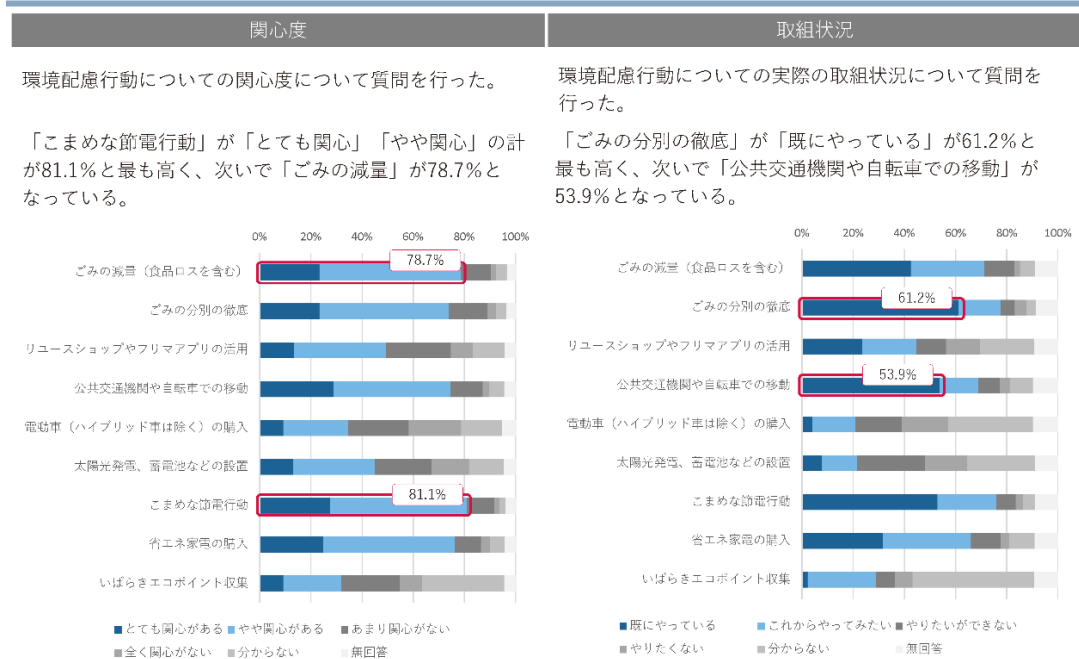


図 環境配慮行動への取組状況と体験学習（資源循環）の関係

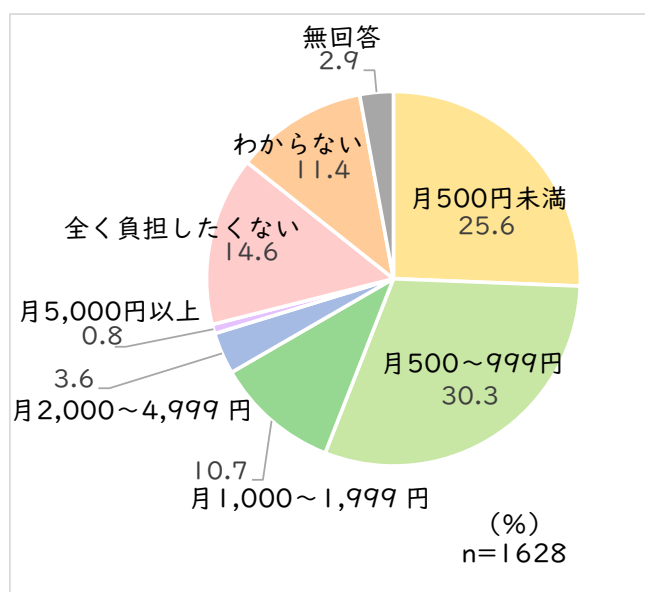
■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組

50

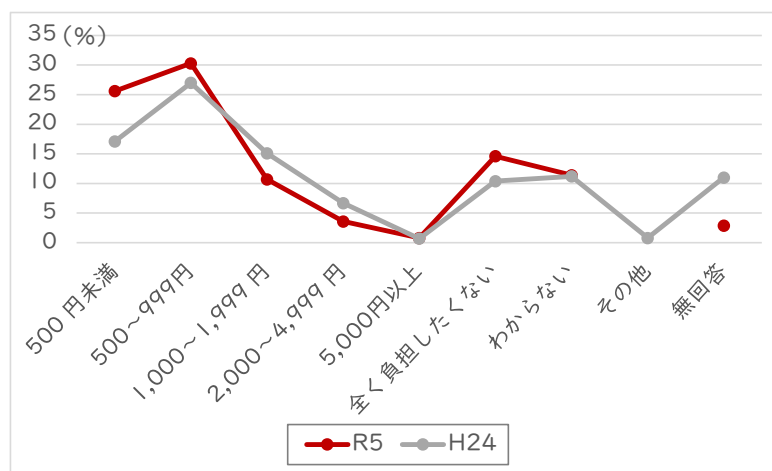


問 33 環境活動に取り組むために、あなたはどの程度なら家計の負担が増えても良いと考えますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つに○）



① 経年比較の結果

経年比較の結果、平成25年度よりも環境活動のための家計負担許容額は、減少した。



* H24年度にのみ選択肢“その他”があった。

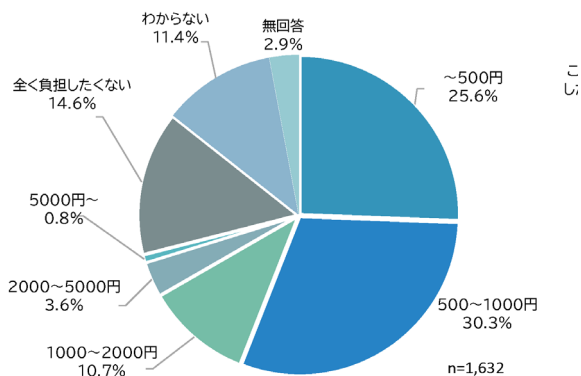
図 家計負担の許容額の経年変化

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境活動のための家計負担

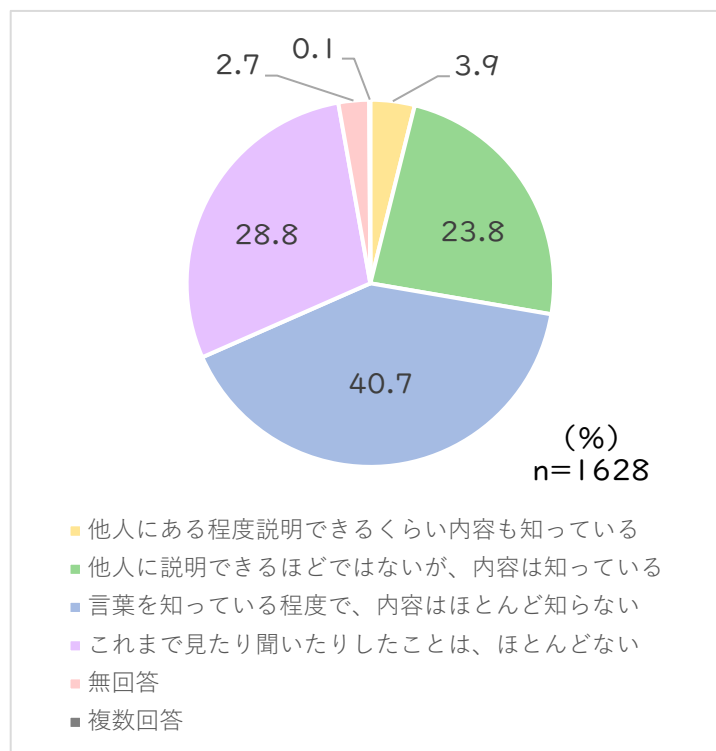
環境活動のため、どの程度家計の負担が増えてもいいかについて質問を行った。

「500円以上1,000円未満」が30.3%と最も多く、次いで「500円未満」が25.6%、「全く負担したくない」が14.6%となっている。



問 34 あなたは、「生物多様性」についてどの程度ご存じですか。（あてはまるもの1つに○）

内容を知らないまたはほとんど知らない人が 69.5%であり、市民の認知度が低いことが明らかになった。



① 年齢別の集計結果

年齢別に見ると、高齢者ほど認知度が低い傾向があった。高齢者を含む成人を市民講座やイベントに誘致する工夫や、広報いばらきでの高頻度・高密度に情報発信すること課題である。

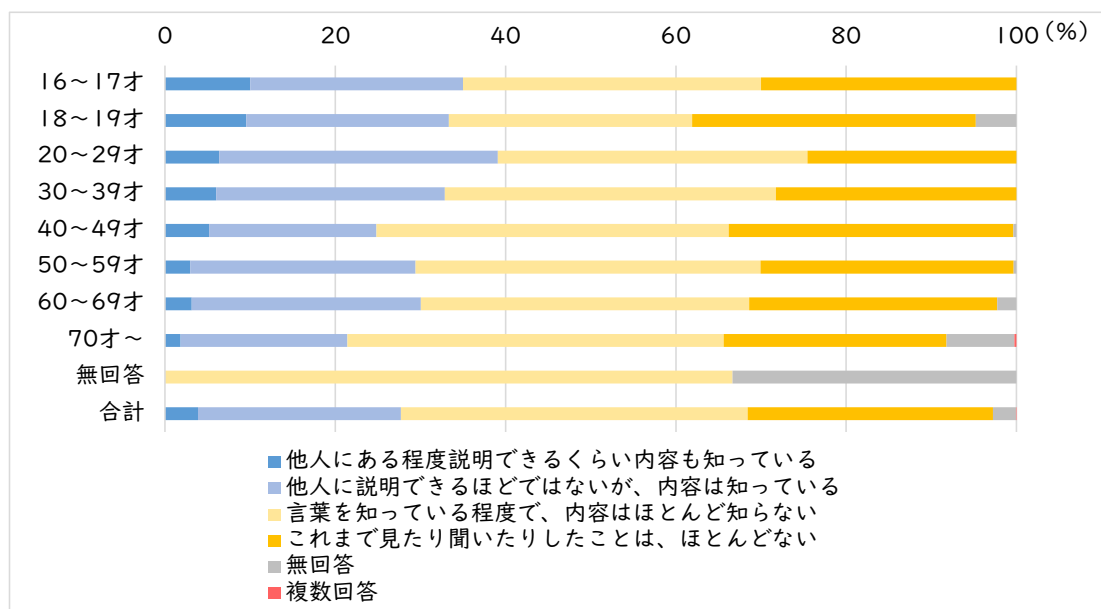


図 生物多様性の認知度（年齢別）

② 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

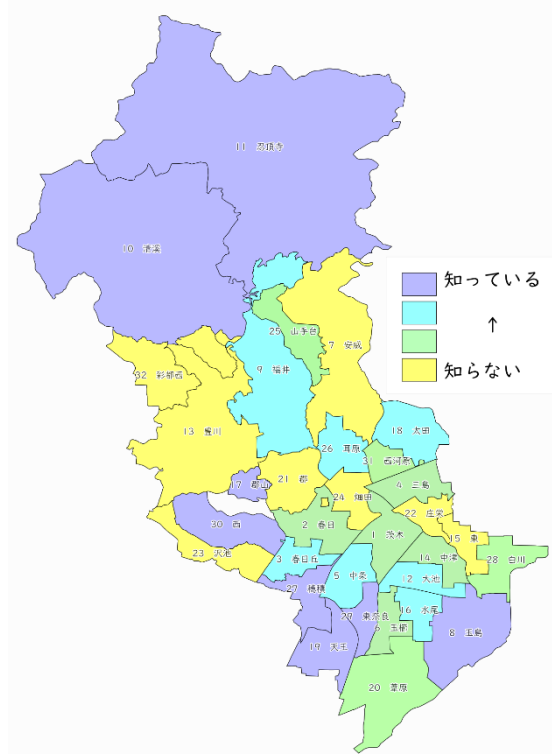


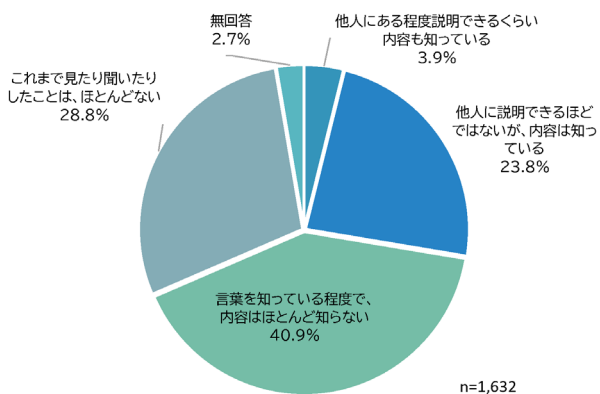
図 生物多様性の認知度（小学校区別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

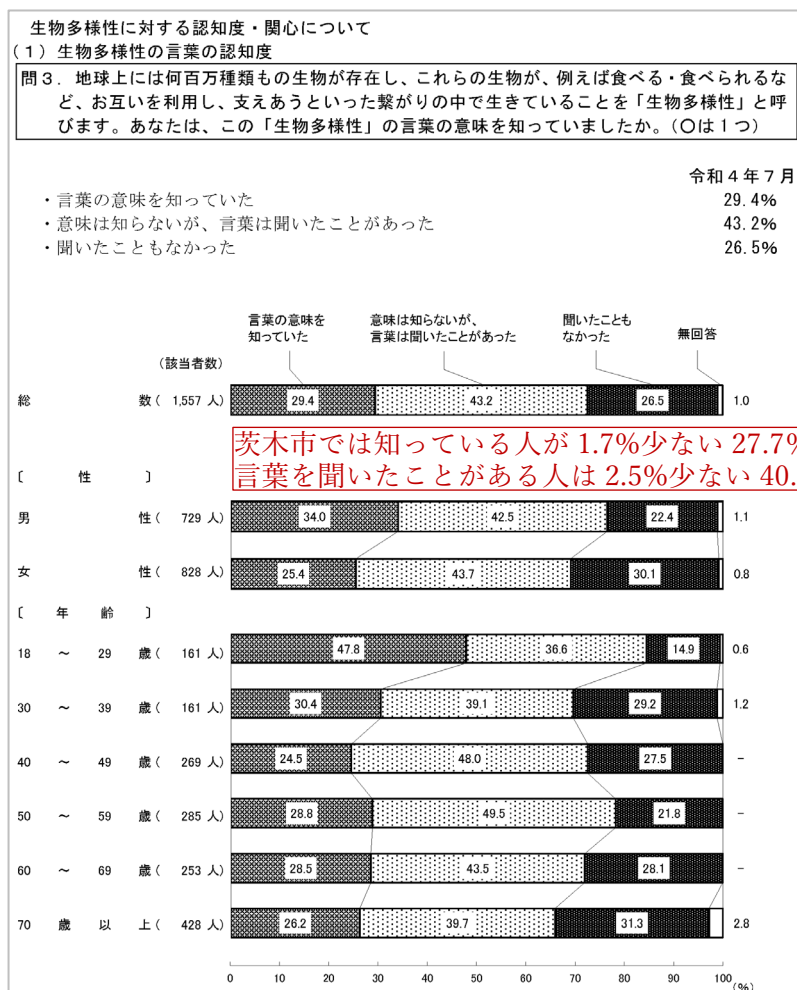
生物多様性

生物多様性の認知度について質問を行った。

「言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない」が40.9%と最も多く、次いで「これまで見たり聞いたりしたことは、ほとんどない」が28.8%となっている。

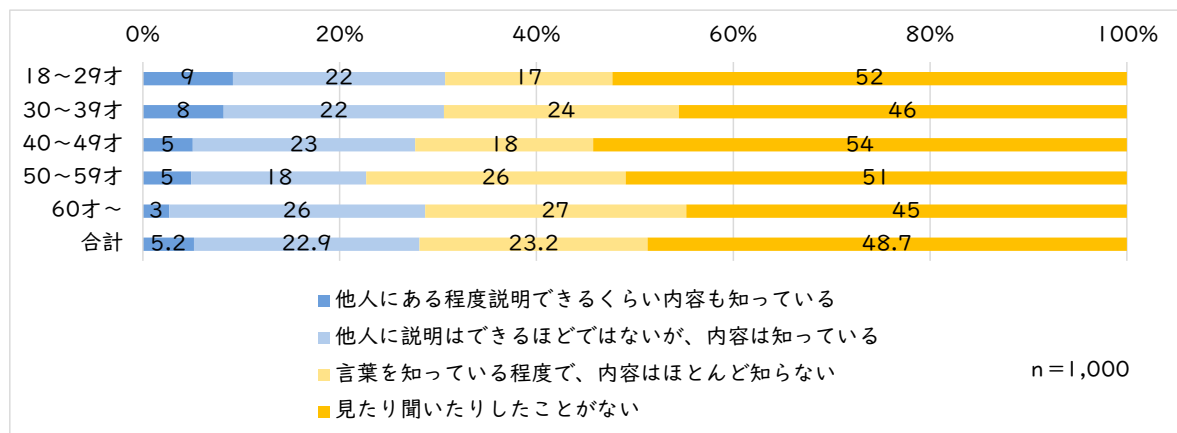


■参考（生物多様性に関する世論調査（令和4年7月調査,内閣府）の類似質問結果）



■参考（生物多様性に関する世論調査（令和5年調査,大阪府）の類似質問結果）

大阪府政策マーケティング・リサーチ「おおさかQネット」(R5)



茨木市では“他人にある程度説明できるくらい内容も知っている”が1.3%少ない3.9%、
“他人に説明できるほどではないが、内容は知っている”が0.9%多い23.8%、
“言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない”が17.5%多い40.7%であった。
大阪府内では茨木市民の生物多様性の認知度は高いと言える。

問 35 次の生物多様性に関することで、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。

“外来生物の悪影響”や“森林やサンゴ礁の減少”を認知度が高かった反面、より身近な生物多様性に係る内容である“レッドリスト”、“里地里山の重要性”、“生態系サービス”の認知度が比較的低かった。茨木市の自然と関連付けた生物多様性の普及が課題である。

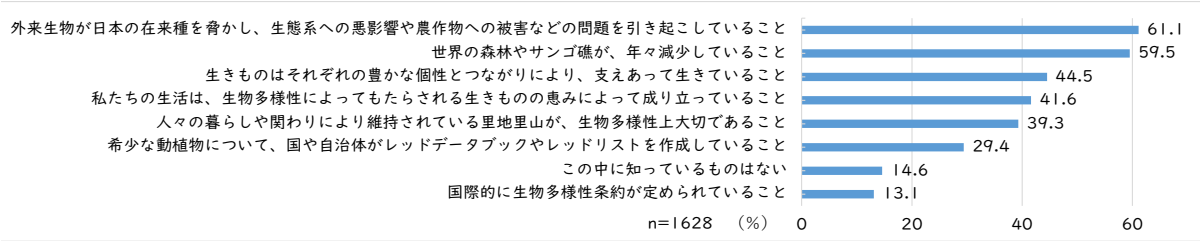
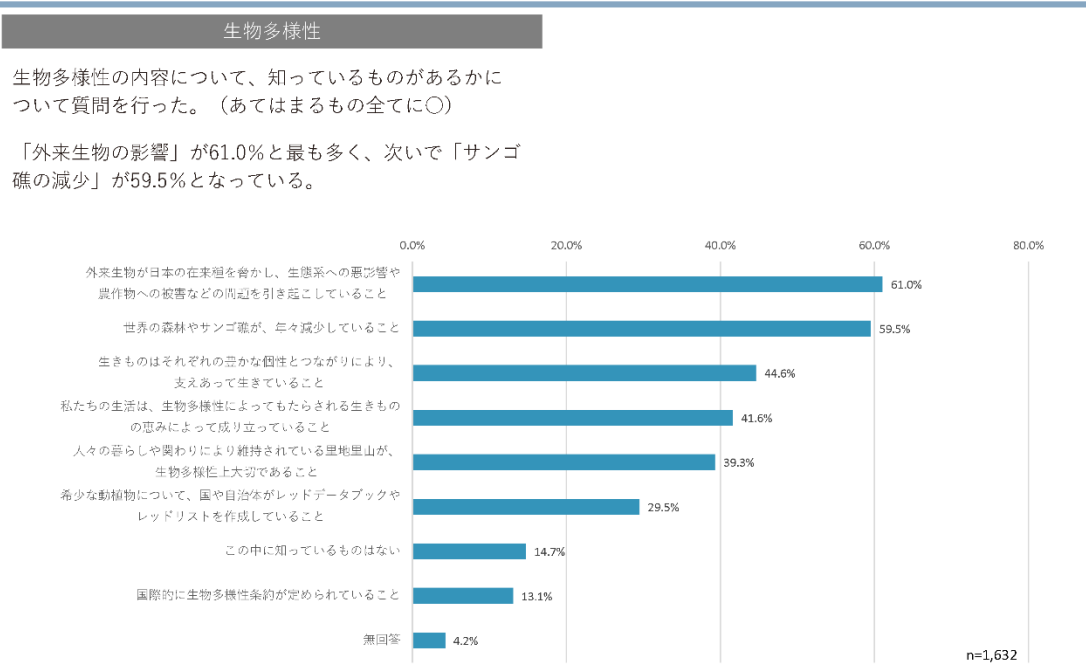


図 生物多様性に係るの認知割合

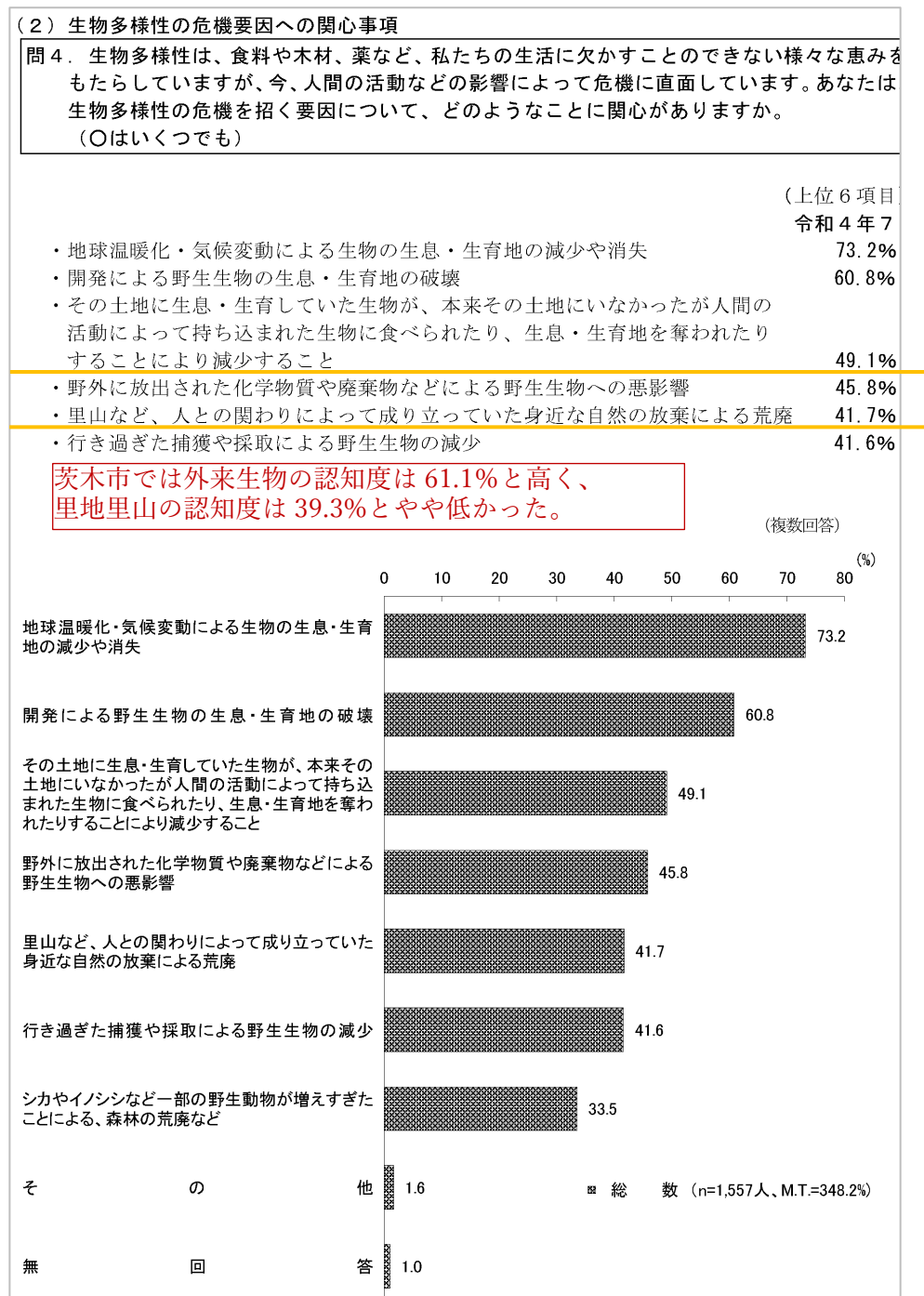
■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組

52



■参考（生物多様性に関する世論調査（令和4年7月調査,内閣府）の類似質問結果）



4 環境教育・学習について

問 36 あなたは、以下のような「座学のみ」の講習、勉強会、オンラインセミナーなどに参加したことがありますか。（各分野、あてはまるもの1つに○）

参加経験者の割合は、“生活環境”、“生物多様性”、“気候変動”、“資源循環”の4分野とも8%未満で低かった。

年齢別に見ると、4分野とも16～17才の参加率が比較的高かったが、それ以外の年代は総じて低かった。16～17才は学校教育の内容が影響している可能性があるが、全世代の参加率を向上させることが課題である。

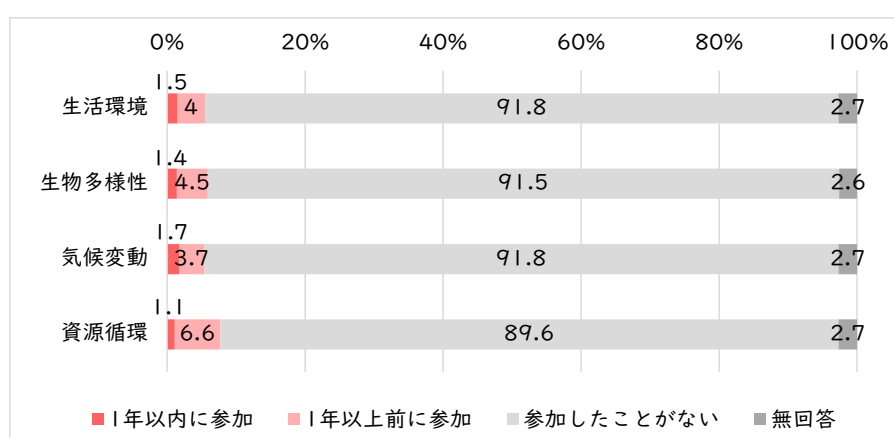


図 座学のための環境学習の参加状況

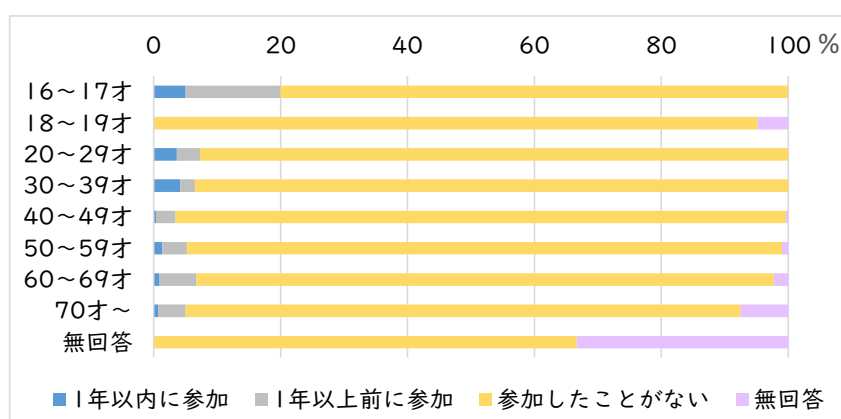


図 生活環境に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

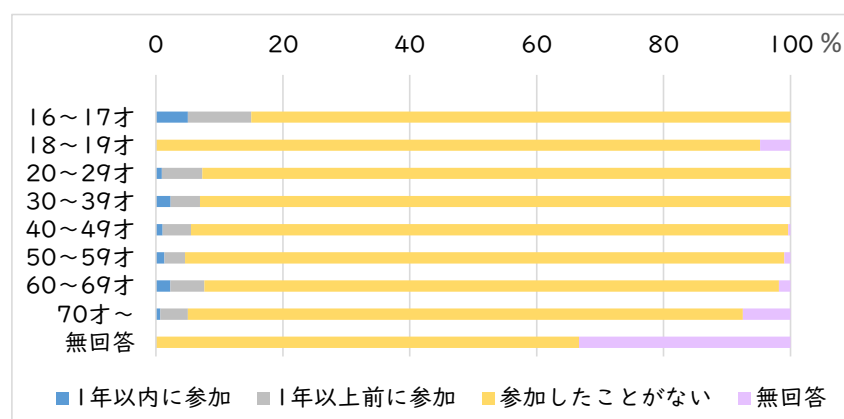


図 生物多様性に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

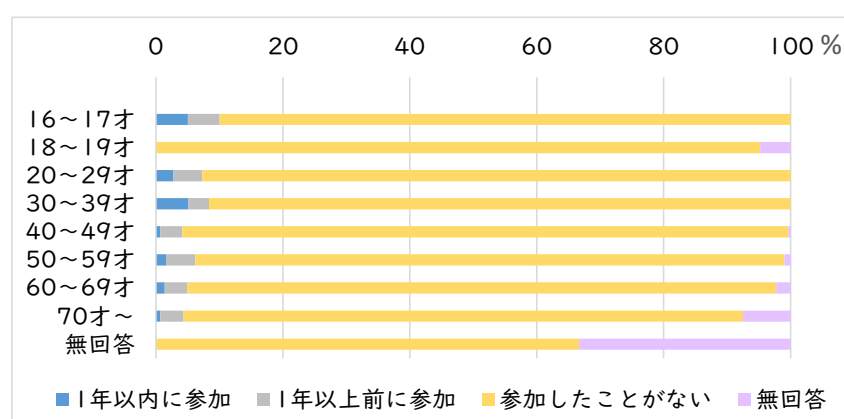


図 気候変動に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

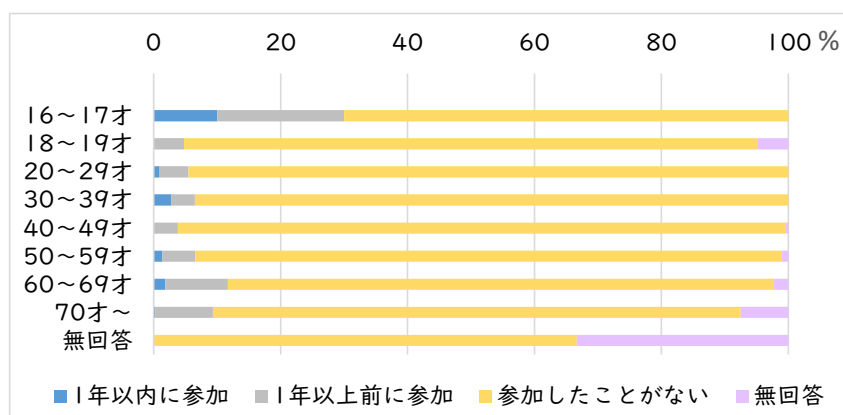


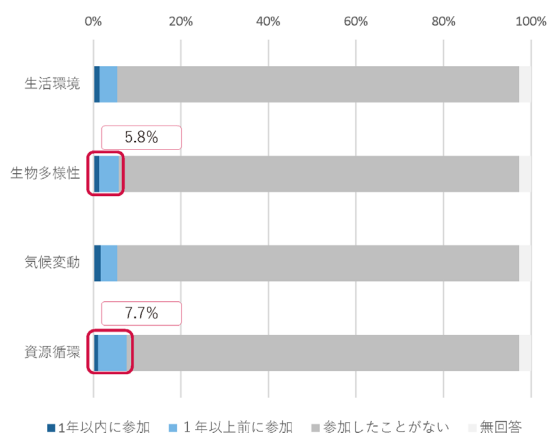
図 資源循環に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

セミナー等への参加

環境に関する座学のための講習、勉強会、オンラインセミナーへの参加状況について分野ごとに質問を行った。

「資源循環」に関する勉強会等への参加が7.7%と最も多く、次いで「生物多様性」が5.8%となっている。



問 37 あなたは、以下のような「体験や実習」に参加したことがありますか。（各分野、あてはまるもの1つに○）

参加経験者の割合は、“気候変動”が6.4%と低かったが、“生活環境”、“生物多様性”、“資源循環”は10.1～17.2%であり、座学への参加割合よりも高かった。

年齢別に見ると、4分野とも16～17才の参加率が最も高く、29才までの若年層の参加割合が高いことが明らかになった。

今後の課題として、30才以上の参加機会を増やすこと、

また、「体験や実習」が「座学のみ」よりも参加割合が高かったことから、「体験・実習型」の機会を増やすことが、環境の認知度向上に効果的と考えられた。

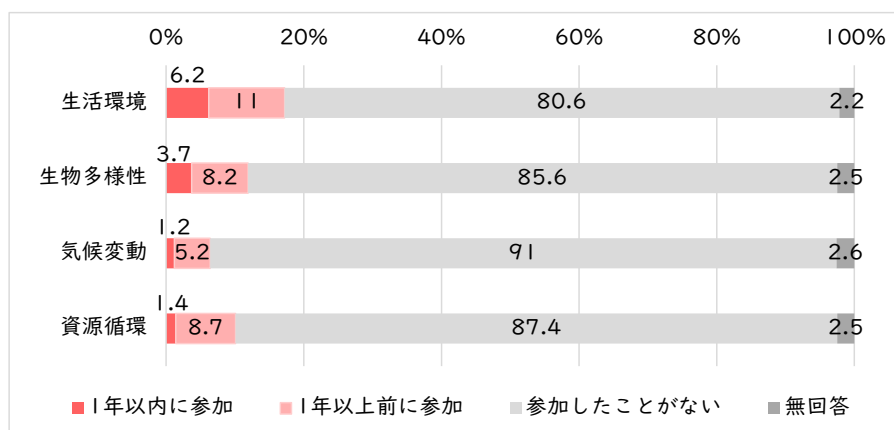


図 体験や学習を伴う環境学習の参加状況

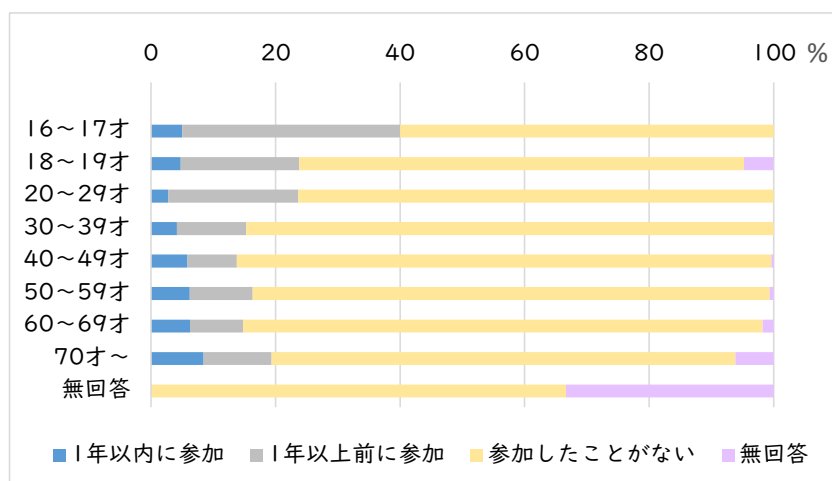


図 生活環境に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

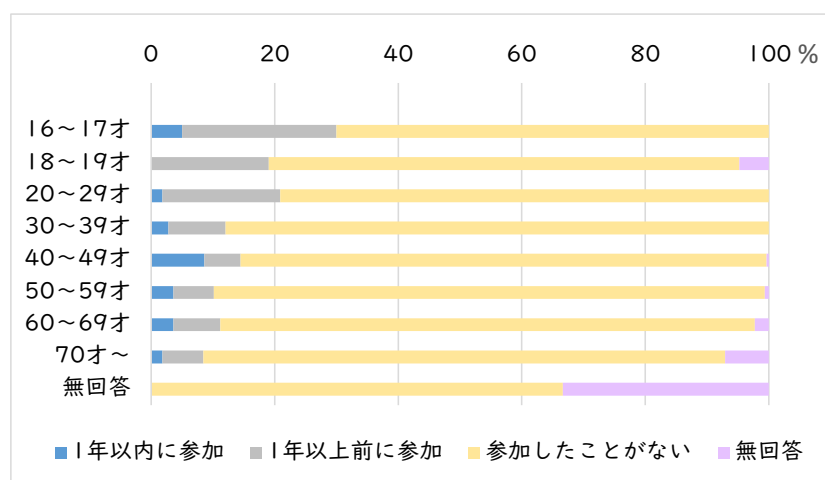


図 生物多様性に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

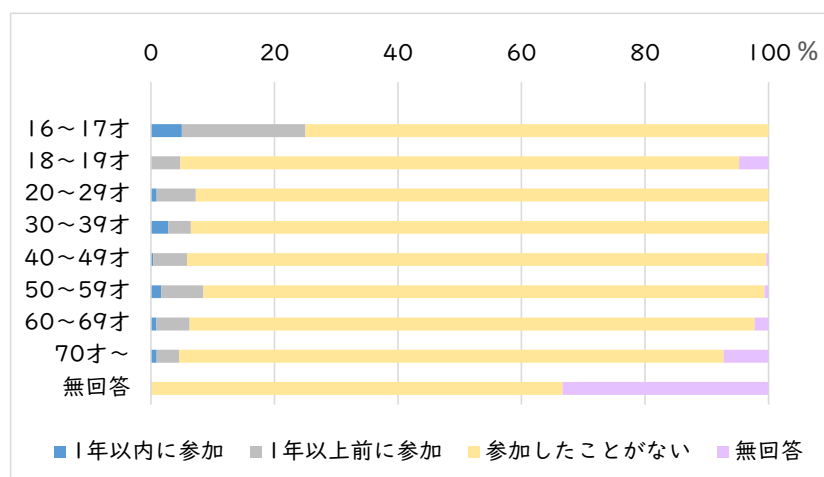


図 気候変動に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

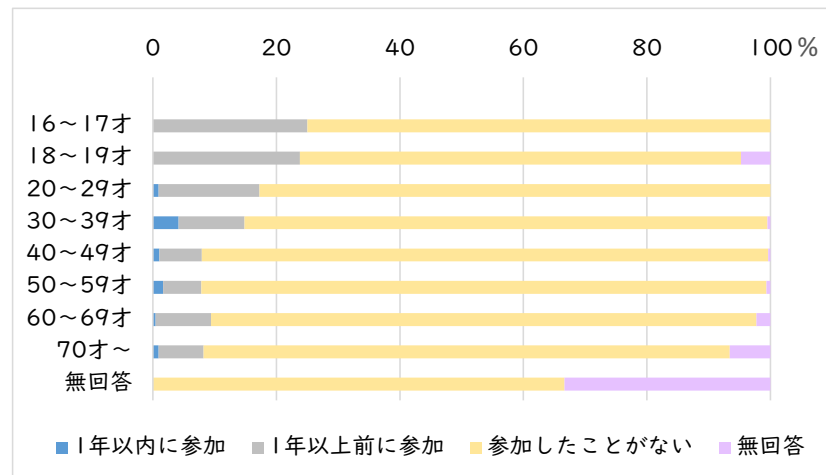


図 資源循環に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

